

令和4年12月2日

嬉野市議会  
議長 辻 浩一 様

市庁舎検討特別委員会  
委員長 梶原 睦也

## 市庁舎検討特別委員会報告書

令和4年第3回嬉野市議会定例会において付託された下記事件の調査結果を、嬉野市議会会議規則第107条の規定により報告する。

### 付託事件名 「市庁舎のあり方に関する調査研究」

#### 調査理由

市庁舎検討特別委員会では嬉野市新庁舎建設に向けて執行部との意見交換の場を兼ねこれまで7回の委員会を開催してきた。

今回は嬉野市新庁舎建設にあたり議会のなすべき役割と庁舎機能について参考とすべく、2020年に新庁舎が開庁した福岡県宮若市役所の現地調査を行った。

#### 調査概要

調査日 令和4年10月17日

調査場所 福岡県宮若市役所 全員協議会室

対応者	宮若市議会	議長	川口 誠 氏
	宮若市まちづくり推進課	課長	吉村 保彦 氏
		係長	有吉 智明 氏
	宮若市議会事務局	係長	松尾 義勝 氏
		主事	安部 勇佑 氏

## 調査内容

福岡県宮若市は人口約 2 万 5000 人、面積は約 140 km<sup>2</sup> もともとは炭鉱都市として発展していたが、1992 年にトヨタ自動車九州が進出してからは自動車関連企業の進出が続いており、財政力指数においても他自治体と比べ高い数値を示している。2006 年（平成 18 年）には旧宮田町と旧若宮町が合併し、宮若市が誕生した。

### <新庁舎建設までの主なスケジュール>

平成 22 年度 東日本大震災発災 合併特例債の起債年度が 10 年度から 15 年度に延長された。

平成 25 年度 宮若市まちづくり計画を見直し「市の防災拠点機能を有する中心的な施設として新庁舎の整備を推進」すると明記。

平成 26 年度 本庁舎等耐震診断調査の結果、耐震性能不足と指摘される。

宮若市中心拠点整備基本構想 「中心拠点整備の必要性と妥当性、整備基本方針、機能配置方針、新庁舎整備の方針」など

宮若市防災拠点施設基本構想 「防災拠点施設整備の必要性と整備方針」

#### 宮若市中心拠点施設整備調査特別委員会

各常任委員会から 2 名ずつ選任。

基本計画、設計業務、予算までを調査対象として設置。(令和 2 年度まで計 35 回開催)

平成 29 年度 中心拠点整備に係る約 36 億円の継続費及び暫定予算の議決

平成 30 年度 宮若市新庁舎建設工事開始

令和元年 12 月 20 日 新庁舎完成

令和 2 年 5 月 7 日 新庁舎開庁

### <議場及び4階フロア>

議場は概ねフラットな造りとなっている。災害時開放のため椅子

子の固定化はされていない。

前面に大型モニター2台設置

正副議長室 委員会室3室 全員協議会室 会議室 議会図書室 議会事務局室等 からなる。

### <庁舎の特徴>

#### 誰もが使いやすい庁舎

市民利用の多い窓口を1階に集約し、わかりやすいサインや段差のないフロアなど誰もが利用しやすいユニバーサルデザインを取り入れている。

デジタルサイネージや屋外LEDビジョンが情報発信のツールとして活用されている。

#### 防災拠点となる庁舎

一般建築物の1.5倍の非常に高い耐震性がある。

非常用発電機(72時間連続運転可能)、災害対策用ガスコック、緊急汚水貯水槽などを設置している。災害対策室には大型モニターを設置し防災拠点としての機能を発揮。

#### 地域木材を活用した庁舎

伐期を迎えた市有林(ヒノキ)を壁や天井などの内装材にふんだんに活用し、木材ならではの優しい空間になっている。

### <議会のかかわり>

議会は、中心拠点施設整備調査特別委員会を平成26年度に設置。各常任委員会より2名選出し、委員長を副議長とする7名で構成される。

35回の委員会が開催され、中心拠点整備基本計画・設計発注・基本実施設計・整備工事等について議論されている。その間、市長よりその都度の決定事項並びに進捗状況の説明がなされている。

中心拠点整備に係る推進体制としては、議会の中心拠点施設整備調査特別委員会と執行機関の宮若市中心拠点整備推進本部との連携及び推進本部と市民代表で構成される宮若市中心拠点整備推進協議会との連携により、市民の意見も反映される仕組みとなっている。(資料別掲)

## 委員会の意見

宮若市の議場についてはおおむねフラットな造りとなっていた。災害時は議場を開放するため椅子は固定化されていなかったが、可動式にすればコストがかかるのでこの方法を用いたとのことだった。本市の議場の在り方については今後市庁舎検討特別委員会において議論を尽くしていく考えである。

宮若市役所に入ってまず気付いたのは、カウンターにポスター等の掲示がなくデジタルサイネージ等を使って、すっきりとしたフロアになっていた。本市においても、今後は庁舎内での情報発信の仕方を工夫すべきではないかと思えた。

正面には総合案内所が設けられ市民が迷うことなく担当窓口へ行ける体制整備がなされていたが、本市においても総合案内所の設置は必要であると考えます。

また、相談室が庁舎内に7か所、別に困りごと相談室も備えられており、市民にとって安心して相談できる環境となっていた。その反面、職員を守る仕組みとして、相談室に緊急非常ボタンが設置されており、このような職員への配慮も必要であると感じた。フリースペースの多目的ホールや子育て福祉課の窓口に併設したキッズコーナーがあることにより、市民に開かれた庁舎との印象を受けた。

市役所内は伐期を迎えた市有林をいたるところにふんだんに使用してあり、温かみのある庁舎となっていた。本市においても伐期を迎えた市有林の新たな活用策として一考の価値があるのではないかと考える。

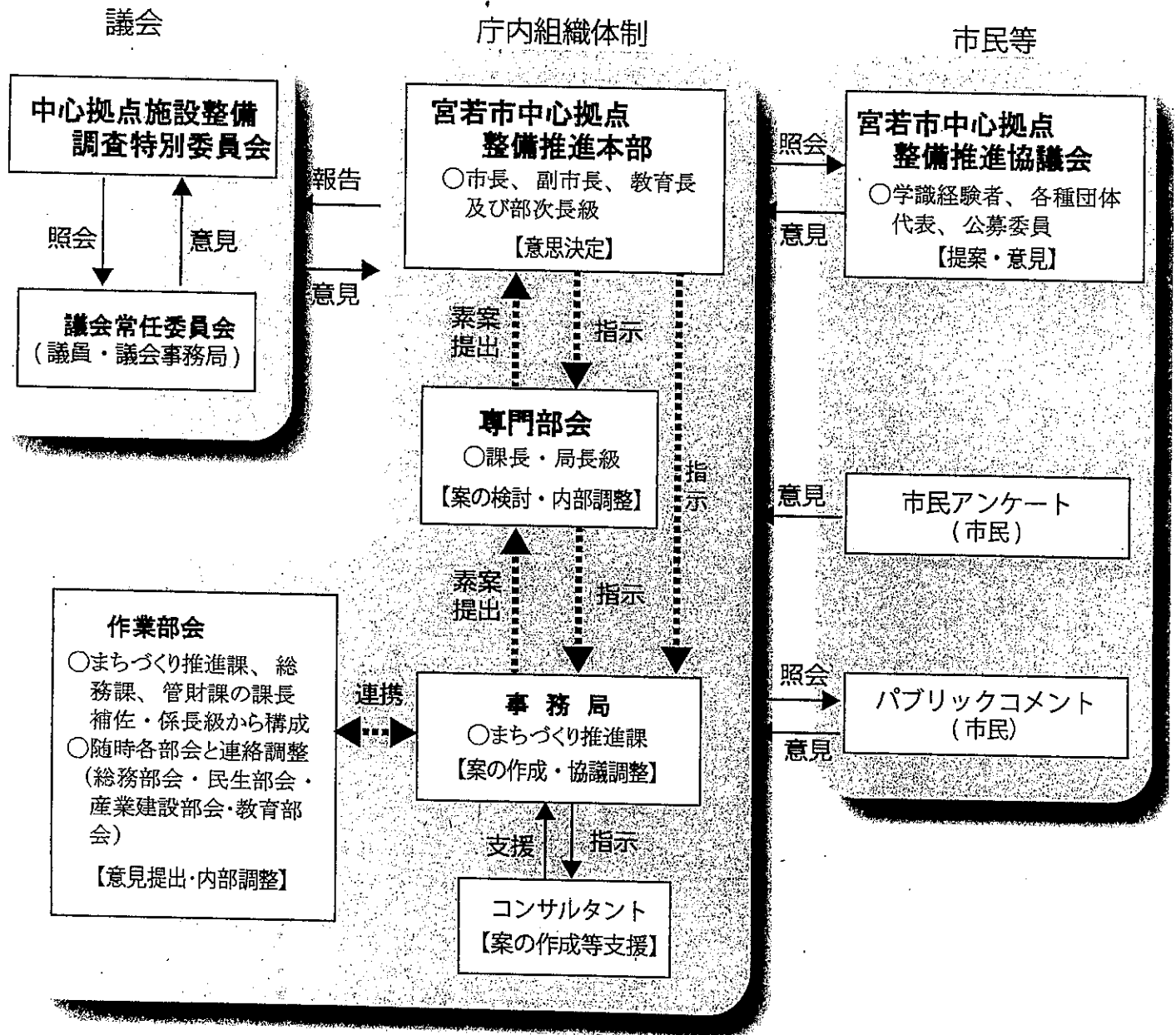
宮若市役所は災害の拠点としての機能も充実しており、災害発生時は停電等に備えた発電設備やガス供給ができる体制も整えられている。本市においても当然のことながら市民の命を第一に考えた災害対策の拠点としての整備充実を望むところである。

宮若市議会は中心拠点施設整備調査特別委員会において、新庁舎建設に向けて議論を重ねてこられたが、今回対応していただいた川口議長も建築資材等の専門知識をお持ちで建設に当たり経費削減のために様々な面でアドバイスをされていた。

建設費用に関しては当初予算額が約36.1億円に対し執行額が約34.7億円と約1.4億円もの削減がなされていた。なお、本市においては建設に当たり、CM方式を採用しておりその効果が最大限発揮されるよう望むものである。

最後に新市庁舎建設に当たっては、今後も執行部とさらなる協議を重ね、災害対応の拠点、全ての市民が気軽に安心して利活用できる庁舎建設、また、できうる限りのコスト削減を求め市庁舎検討特別委員会としての役割を果たしてまいりたい。

■中心拠点整備に係る推進体制



※福岡県宮若市への行政視察時に配布された資料から抜粋